

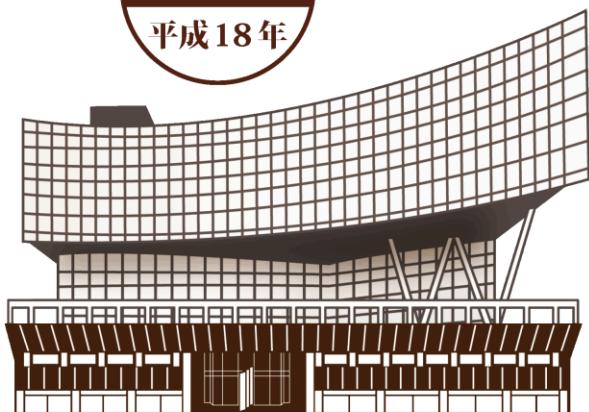
1922

大正11年



2006

平成18年

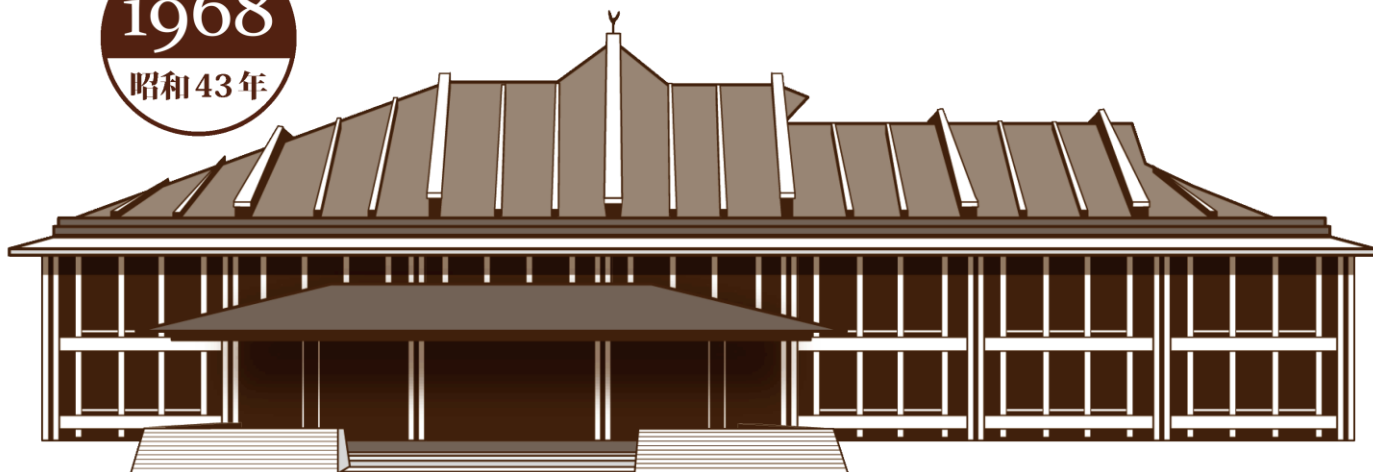


# 岩手県立図書館 誕生物語

本と人を結んで100年

1968

昭和43年



岩手県立図書館子ども向け郷土資料 Vol.7  
岩手県立図書館誕生物語 本と人を結んで100年

も く じ

岩手の図書館のはじまり	1
たんけん!初代県立図書館	5
図書館の発展と戦争	6
岩手県立図書館 <small>ちゅうこうき</small> の中興期	8
たんけん!二代目県立図書館	11
<small>じょうほう</small> 情報化社会と図書館	12
<small>とくべつ</small> 特別なコレクションを <small>しょうかい</small> 紹介するコーナー	14
新たな交流・活動 <small>かつどうきよてん</small> 拠点としての図書館	17
岩手県立図書館の一日	18
<small>ひがしにほんだいしんさい</small> 東日本大震災と図書館	20
コロナ禍 <small>か</small> の図書館	22
たんけん!三代目県立図書館	24
岩手県立図書館大百科	26
参考文献	30

こんにちは。岩手県立図書館マスコットキャラクターの“そめちゃん”です。  
岩手県立図書館は、2022年(令和4)4月20日に、創立100周年を迎えました。  
初代岩手県立図書館は、「平民宰相」として知られる盛岡市出身の政治家・原敬の寄付を受け、1922年(大正11)4月20日に開館しました。  
その後、現在のもりおか歴史文化館として使用されている2代目館を経て、2006年(平成18)にいわて県民情報交流センター(アイーナ)に移転開館しました。

100年という図書館の長い歴史には、いろんなことがありました。  
私がナビゲーターとして、図書館のあゆみをご紹介します。



# 岩手の図書館のはじまり



日本に図書館の原型が誕生したのは奈良時代のことです。8世紀の半ばごろ奈良時代後期に、貴族の屋敷内に作られた文庫(本を入れておく建物)が、日本初の公開図書館といわれています。しかし、こうした施設を利用できるのは、貴族や武士など、一部の人のみに限られていました。

江戸時代になると、本の出版が広まり、文字を読める人もふえました。各地の藩校(武士の子のための学校)には文庫が作られ、一般の人々向けには、神社の文庫や、本をたくさん持っている人が蔵書(自分の本)を公開する例などがみられるようになりました。

## 江戸時代 岩手ゆかりの人々による図書館

### 青柳文庫



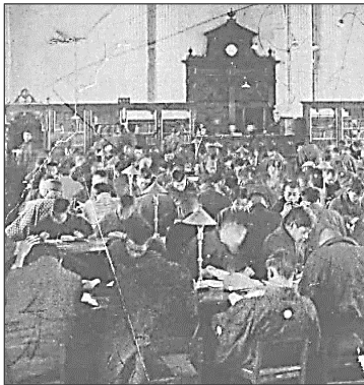
青柳文蔵(『青柳文蔵翁伝』岩手県図書館協会 1931)

現一関市東山町(当時は仙台藩)生まれの青柳文蔵(1761~1839)が蔵書・資金を提供し、1831年(天保2)仙台城下に作った文庫。武士や町人の区別なく利用でき、公共図書館のさきがけとされています。

### 稲荷文庫

現二戸市福岡生まれの小保内定身(1834~1883)が、1863年(文久3)頃、同市の吞香稲荷神社境内に作った文庫。人々がお金を出しあって本を買う仕組みを作り、地域の人材を育てました。

## 明治~大正時代初期



明治期の帝国図書館(『東京風景』明治44年) 国立国会図書館デジタルコレクションより

明治時代になると、西洋から新しい技術や文化がもたらされ、海外の図書館のようすも紹介されるようになります。これらを参考に、誰でも利用できる近代的な公共図書館が各地に設立されました。岩手県では、新しい知識を求め人々によって、私立の読書施設が作られました。1873年(明治6)盛岡に誕生した「書籍展覧所(場)」は、のちに「求我社」と名前を変え、岩手県の自由民権運動の中心となる政治団体へと変わっていきます。その後、1879年(明治12)には遠野に「信成書籍館」、盛岡に「協同社」が設立され、こうした施設の一つとして、1882年(明治15)、盛岡に岩手県立図書館の前身となる会員制の図書館「玉東舎」が誕生しました。玉東舎では、会員たちが毎月会費を出し合って本を買集め、いずれは誰もが利用できる図書館を作ることを目標にしていました。

明治時代になると、西洋から新しい技術や文化がもたらされ、海外の図書館のようすも紹介されるようになります。これらを参考に、誰でも利用できる近代的な公共図書館が各地に設立されました。

岩手県では、新しい知識を求め人々によって、私立の読書施設が作られました。1873年(明治6)盛岡に誕生した「書籍展覧所(場)」は、のちに「求我社」と名前を変え、岩手県の自由民権運動の中心となる政治団体へと変わっていきます。その後、1879年(明治12)には

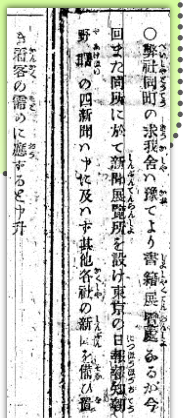
「図書館」という

名前はまだなかったんだね。グループでお金を集めて本を買ったり、個人が自宅や蔵書を開放したりという形が多かったみたい。

書籍展覧所(求我社)で、新聞が読めることを伝えた記事

『日進新聞』

1877年(明治10)12月8日





その1 ぎょくとうしゃ 玉東舎

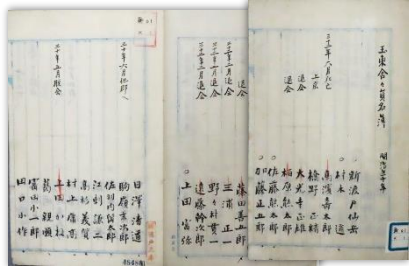
もりおか わか 盛岡に住む若い教育者や読書家を中心となり、最初は会員25人  
ではじまりました。1884年(明治17)頃には会員が増え、122名になりました。

「玉東」は、  
ひめがみさん べつゆい 姫神山の別名だよ

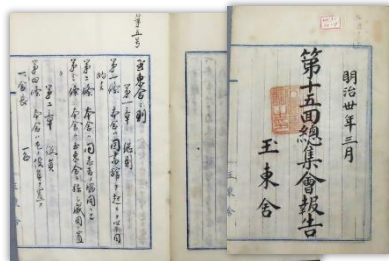


県立図書館  
の お宝拝見!

会員がわかる!  
『玉東舎舎員名簿』



同年頃のものと思われる「閲覧規則」によると、毎週日曜・木曜が閲覧日で、  
貸出期限は3週間、貸出冊数は5冊以内でした。



読む決まりがわかる!  
『玉東舎第十五回総集會報告』

1897年(明治30)



どんな本があったかわかる!  
『図書目録』 1885年(明治18)

場所は何度か変わって、明治17  
年には、盛岡市茸手町14番地  
(現中ノ橋通り1丁目)にあったよ



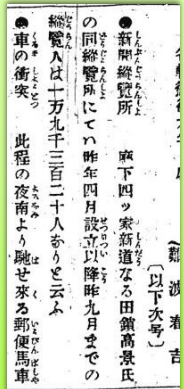
明治前期の読書施設は、書籍館、書籍縦覧所、図書室など、さまざまな名前によばれ、「図書館」という名前が定着したのは、1890年(明治23)に改正された「小学校令」で“図書館”が使われるようになってからのことです。1899年(明治32)に図書館に関する法令「図書館令」が作られ、この頃には岩手県にも公立図書館開設を求める声が高まりました。誰もが利用できる図書館設立を目指していた玉東舎は、蔵書等を盛岡市に寄付し、市立図書館を設立するよう市

※教育会とは、学校の先生たちが学ぶ場として始まった団体だよ。本を持ちよって、学校の一室に図書閲覧室を作ることが多かったみたい。



明治時代後半まで、県内に作られた図書施設の多くは、広く一般に公開される公共のものであっても、主に個人の寄付で運営されていたよ。

明治19~40年、盛岡の田鎖高景が、自宅で開いていた、新聞・本の閲覧所の記事  
『岩手日日新聞』  
1887年(明治20)10月8日



働きかけるなど、図書館設立に向けての活動を続けます。

ねばり強く活動を続けた結果、1903年(明治36)盛岡市教育会

※が設立した私立図書館「盛岡図書館」に、玉東舎の蔵書が引きつけられることになりました。

しかし、盛岡図書館は1907年(明治40)に一時休館し、1908年(明治41)岩手病院(現岩手医科大学附属病院内丸メディカルセンター)内の「岩手医学図書館」に入居する形で再開されました。1916年(大正5)には、盛岡の青年実業家団体・盛岡倶楽部の敷地の中に新しく建物をたて、独立して開館しました。



盛岡図書館、盛岡倶楽部の敷地内に、建物完成の記事  
『岩手日報』  
1916年(大正5)5月25日



# 岩手県立図書館のご先祖 **その2** 盛岡図書館

玉東舎は会費が必要な会員制の図書館でしたが、盛岡図書館は誰でも無料で利用することができました。1903年(明治36)6月の開館時点では、開館日は日曜・祝日、土曜の午後で、新聞雑誌類のみ毎日閲覧できました。最初の1カ月の利用者は1日11人あまりで、その多くは学生でした。1916年(大正5)に独立開館してからは閲覧者が増加し、大正6、7年の1日平均は80人で、夏休み中は150人あまりにのびりました。



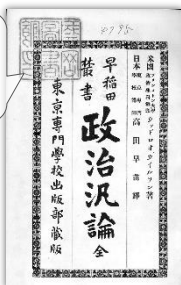
どんな本があったかわかる!

## 『図書目録』



盛岡図書館 1916年(大正5)

盛岡図書館のはんこがある本



『政治汎論』  
東京専門学校出版部  
1895年(明治28)



春休み中の学生が多いなど、盛岡図書館の様子を伝えた記事『岩手毎日新聞』1918(大正7)3月25日

図書館はここ!

『盛岡市街岩手公園案内俯瞰図 絵』東京図鑑社 1920年(大正9)



現在の岩手県民

会館近くに洋風の建物を建てたんだよ

## 岩手県立図書館の誕生

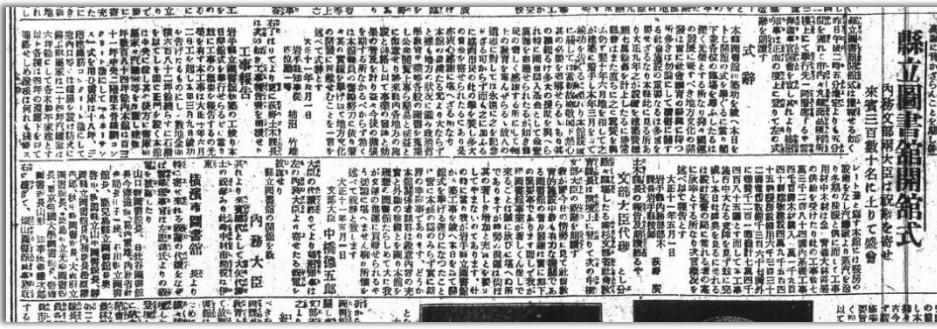
明治時代後期頃から、全国各地で府県立図書館が設立されるようになります。これらの図書館は、すでにあった教育会の図書館を引きつぐ場合が多くありました。岩手県でも、教育会(盛岡市教育会から改称し岩手県教育会盛岡市部会)が運営する、盛岡図書館の蔵書をもとにし、1922年(大正11)に岩手県立図書館が開館しました。

県立図書館を設立しようという動きは、予算不足などの理由で、なかなか実現せず先延ばしにされていました。

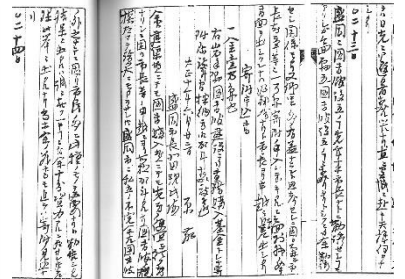
しかし、盛岡出身で当時総理大臣だった原敬が、図書館設立のためのお金を寄付すると申し出たことにより、状況は一変します。1920年(大正9)、盛岡に帰省した原は、盛岡市長・岩手県知事と話し合い、県立図書館設立の話がまとまりました。

県立図書館は、現在の岩手県公会堂のななめ向かい側(現盛岡市内丸3/内丸緑地)に建設されることとなり、工事は1921年(大正10)6月から始められ、翌年3月に完成します。中央部分が2階建ての建物は、その左右両側に1階建てが付いた本館、鉄筋コンクリート3階建ての書庫などがありました。そして1922年(大正11)4月20日、職員10名、蔵書約1万5千冊の岩手県立図書館が開館しました。

岩手県立図書館設立への動き	
大正6 (1917)	設立のための予算案が出されるも、財政難で取り消し。
大正7 (1918)	翌年設立の予算を出す動きが出されるも、財政難で先延ばし。
大正8 (1919)	財政難でしばらく見送りとなる。
大正9 (1920)	8月、原敬が帰省(寄付の申し出)。11~12月、県会で建築費約7万5千円などの予算が決まる。



開館式の記事『岩手日報』1922年(大正11)5月2日



『原敬日記』大正10年6月23日

(『原敬日記 影印』北泉社 1998)

## 原敬と岩手県立図書館



原敬(1856-1921)

国立国会図書館  
『近代日本人の肖像』より

もりおかしゅっしん はらたかし そうりだいじん  
盛岡市出身の原敬は、1918年(大正7)総理大臣となり、日本初の  
ほんかくてきせいとうないかく へいみんさいしやう よ  
本格的政党内閣をひきました。「平民宰相」と呼ばれ、ふるさと岩手の  
はってん つ せつりつ きふ  
発展にも力を尽くし、岩手県立図書館設立への寄付もその一つです。

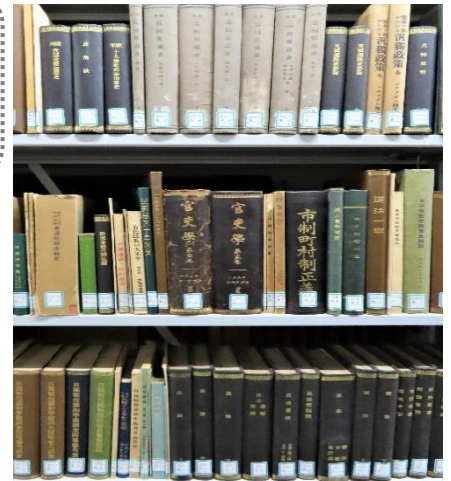
1921年(大正10)6月23日の『原敬日記』には、図書館の本を買う  
お金として1万円の寄付申込書を送り、いずれ自分の蔵書も寄贈するつ  
もりだと書かれています。

しかし、同年11月4日に東京駅で暗殺され、寄付金1万円が届けられ  
たのは原が亡くなった後のことでした。また、寄贈する予定だった蔵書は、  
1923年(大正12)9月の関東大震災で大半が燃えてしまいました。



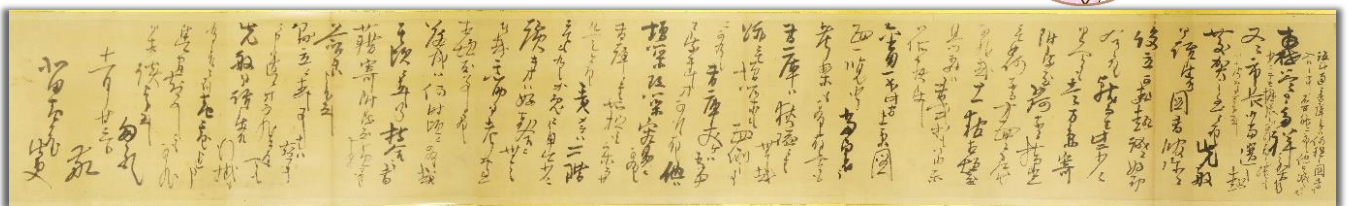
原敬が「盛岡に図書館を建てたら」と提案  
したときに、居合わせた柿沼知事が県立と  
しての建設を申し出たそうだよ。

その後、1979年(昭和54)、盛岡の別邸の倉庫内に残って  
いた図書約1300点が原敬の養子・貢によって寄贈されまし  
た。蔵書のジャンルは、哲学・宗教・法学・アジア諸国の地誌な  
ど、多岐にわたり、「原敬文庫」と名付けられました。



## 県立図書館 のお宝拝見!

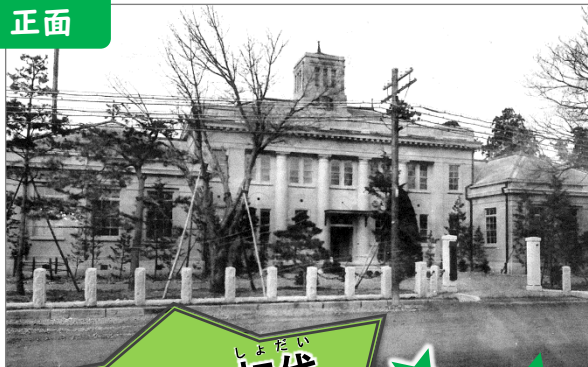
県立図書館の設立について書かれた手紙  
には、「書庫は広く」とあり、原敬のこまか  
い心くばりがわかるよ。



原敬首相より北田親氏盛岡市長宛書簡  
1920年(大正9)11月23日

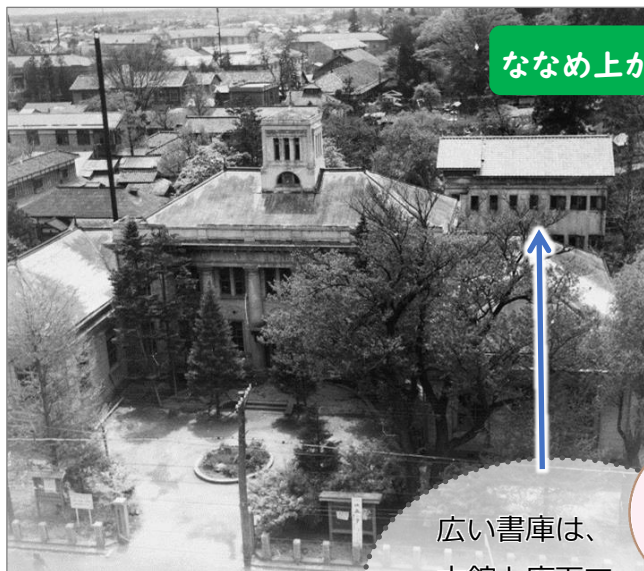


正面



たんけん！初代  
県立図書館

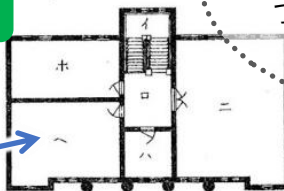
ななめ上から



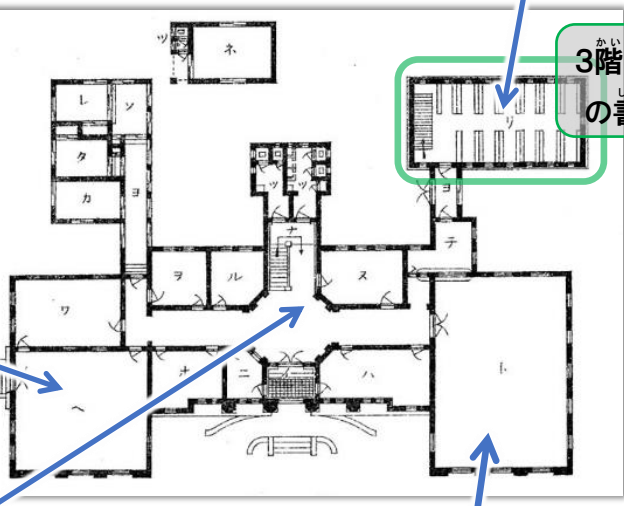
広い書庫は、  
本館と廊下で  
つながっている



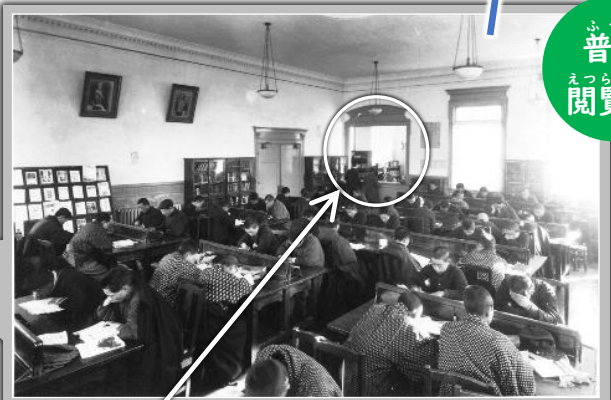
平面図



3階建て  
の書庫



普通  
えつらんしつ  
閲覧室



婦人  
えつらんしつ  
閲覧室

当時の図書館には、  
女性用の部屋が作られ  
ることが多かったよ  
何でも  
男女別!



児童  
えつらんしつ  
閲覧室



もくろくしつ  
目録室  
いりぐち  
入口

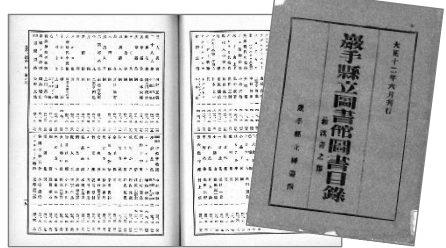


目録室？本棚がならんだ  
部屋はないのかな？

当時の図書館は、ほとんどの本が書庫にし  
まってあって、どんな本があるか目録で調  
べて、書庫から出してもらっていたよ。

書庫の本を出す、  
出納室と閲覧室の  
間のカウンター

パソコンなし紙の目録で  
さがすから大変!



『岩手県立図書館図書目録 和漢書之部』  
岩手県立図書館 1923年(大正 12)

写真・図:「岩手県立図書館絵葉書」より



# はってん せんそう 図書館の発展と戦争



## きそ 県立図書館の基礎

開館の翌年に館長に就任した鈴木勝二郎は、読書を広める様々な活動  
精力的に行き、県立図書館の基礎を築きました。鈴木館長が行った新しい試み  
として、県立図書館の近況や最新情報などを伝える「館報」の発行や、女性の読  
書を推進するための「婦人読書会」の設立などが挙げられます。また苦学生  
対策にも力を入れ、盛岡夜間中学校(現在の岩手県立杜陵高等学校)を創設し  
たことも大きな功績の一つです。



鈴木 勝二郎  
(大正 12.2~大正 14.3)

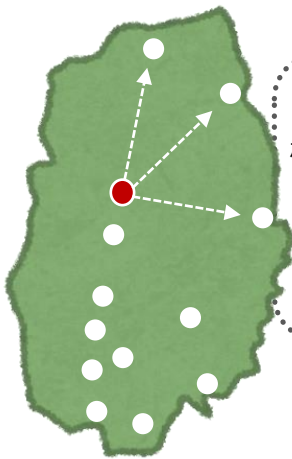


かんぽう  
館報は  
げんざい れいわ  
現在(令和4年4月)  
第190号まで  
出ているよ!

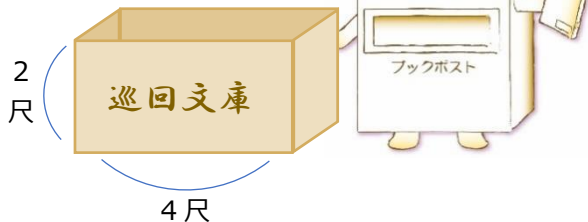


かんぽう  
『館報』第1・2号

日中に学校に通えない学生のために、  
図書館の一部を利用して授業を行っ  
ていました。全国では3番目、  
県内では初めてできた夜間  
学校らしいよ。



たて しゃく やく  
縦2尺(約60cm) ×  
よこ しゃく やく  
横4尺(約120cm)の箱  
に本をたくさん  
つめて送っていた  
らしいよ!



また、本を県内各地に巡回させ、より多くの人に利用  
してもらうための「巡回文庫」という取り組みがありました。  
当時の岩手県では、農村を離れる青年が多く、それを少し  
でも減らそうとして行われた事業です。本をつめた箱を県  
内13の郡役所へ送り、そこからさらに各町村の簡易図書  
館に配布する仕組みでした。

しかし、役所に置かれたまま簡易図書館まで送られない、  
割り当てられた日にちが短すぎて閲覧する時間がない、と  
いった事態が相つぎました。やがて巡回文庫は、予算が足  
りずに一度中止されます。

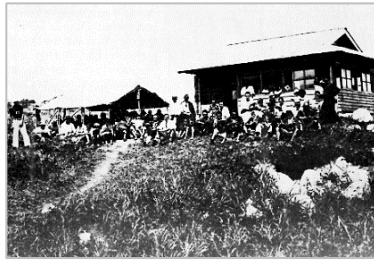
本をしっかり届けることが難しかった巡回文庫に代わり、

1927年(昭和2)には「貸出文庫」が始まります。要望に応じて県内の図書館、学校、その他の団体に  
本を貸し出すこのサービスは、始まった当初こそ利用は少なかったものの、次第に申し込みの数も増え、  
広く利用されるようになっていきました。

げんざい  
現在の県立図書館でも行われている  
「団体貸出サービス」と同じものだよ。



貴重・推薦図書展覧会



海浜図書館

(『岩手県立図書館のあゆみ 新館落成記念誌』より)

このほか、珍しい本や貴重な本を集めた  
図書展覧会や、海水浴客向けのテント張  
り海浜図書館、子ども向けの童話会など、  
県民の読書意欲を高めるための様々な  
図書館サービスを発展させていきました。

## 戦時中の図書館

開館から9年後の1931年(昭和6)に、満州事変をきっかけとして中国との間に  
戦争のきざしが見え始め、日本社会全体の緊張感が高まります。県立図書館も、予  
算が半分以上に削減され、軍事ものの本が流行するなどの影響を受けました。

そのような中、1934年(昭和9)、県立図書館は県の中央図書館に指定されま  
す。この時期に館長に就任した菅野義之助は、県内の図書館を支援するための図  
書館ネットワークの確立や、郷土史研究などに力を尽くしました。



菅野 義之助  
(昭和 11.4~昭和 18.7)

## 戦時中の図書館サービス

戦争をたたえる  
童話や講演など



軍国児童大会のチラシ  
(『岩手県立図書館  
30年のあゆみ』より)



発送前の精動文庫  
(『岩手県立図書館のあゆみ  
新館落成記念誌』より)

再開された巡回  
文庫は、戦争に関する  
本ばかりに

1937年(昭和12)には日中戦争の火ぶたが  
切って落とされ、さらに1941年(昭和16)には世  
界各国を巻き込んだ太平洋戦争(第二次世界  
大戦)へと発展します。

戦争が激しくなるにつれて、若者は戦地へ駆り  
出され、残された人々も食糧の増産に追われ、や  
がて県立図書館は閑古鳥が鳴くような有様になっ  
ていきました。

戦局が激しくなってきた1944年(昭和19)の  
秋には、岩手県の防衛作戦を統括する「盛岡地区  
防衛司令部」が県立図書館に設置されます。軍の  
関係者にいくつもの部屋を占領され、通常の図書  
館業務はできなくなりました。

また、1945年(昭和20)3月には、盛岡市が岩手県内で初のB29による空襲を受けます。県立図書  
館は、さらなる空襲に備え、郷土資料を中心とする貴重図書の疎開を行いました。

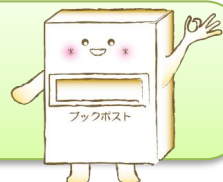
このように、戦争によって図書館としての機能を徐々に  
失っていきながら、県立図書館は1945年(昭和20)  
の終戦の日を迎えたのでした。

紫波郡乙部手代森  
(現在は盛岡市手代森)などに  
貴重な本を避難させたよ





# 岩手県立図書館の中興期



## 戦後の再スタート

盛岡地区防衛司令部の解散後、県立図書館はただちに平常どおり開館し、再スタートを切ります。終戦の翌年には石川啄木の研究者としても著名な吉田孤羊が司書に就任し、戦時中に荒れ果て「内丸の化物屋敷」と呼ばれていた県立図書館の再建に尽力しました。ほこりをかぶった資料の整理に取りかかり、カード目録と実物の図書との照合や、NDC（日本十進分類法）への切り替え、書棚づくりまで、やれることは何でもやっていると書かれています（『岩手県立図書館30年のあゆみ』より）。



蔵書整理の様子  
（『岩手県立図書館のあゆみ  
新館落成記念誌』より）

当時の日本は天皇制国家から民主国家への転換を余儀なくされ、教育の場面でも大きな改革が起こっていました。新たな社会教育の基盤としての図書館が期待され、豊富な蔵書と適切な整理、利用者への速やかな提供が求められるようになったのです。そのため、資料整理と目録作成が全国の図書館の急務となりました。

1947年（昭和22）には、作家の鈴木彦次郎が専任館長として就任します。在野人（公職ではなく、民間で活動していた人）の登用として各方面から期待され、図書館の門戸開放に大きく貢献しました。



鈴木 彦次郎  
（昭和 22.4～昭和 26.3）

## NDC(日本十進分類法)って何？

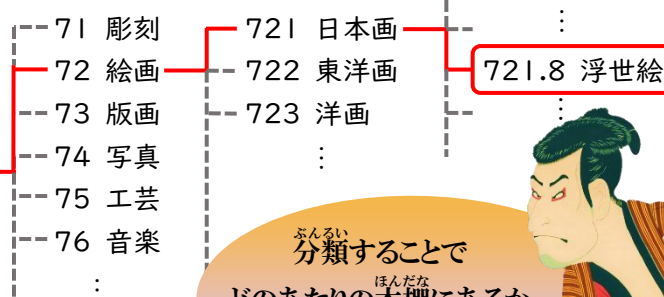


NDCとは、日本の図書館でもっとも多く使われている「図書の分類法」です。本が扱うあらゆる分野の知識を1～9の数字に、どこにも属さないものは0に分類します。そしてさらに0～9の数字を使って細かく分類していきます。

例えば、「浮世絵」の本は「721.8」に分類されます。

### NDC類目表(第1次区分表)

0類 総記	5類 技術
1類 哲学	6類 産業
2類 歴史	7類 芸術
3類 社会科学	8類 言語
4類 自然科学	9類 文学



分類することで  
どのあたりの本棚にあるか  
わかりやすくなるよ！





## 郷土資料の充実

1949年(昭和24)には、「郷土資料の秘庫」といわれた新渡戸仙岳の蔵書約500冊をゆずり受けます。郷土史家である仙岳が明治18年以来収集してきたもので、その内容は幅広く、岩手の歴史研究に欠かせない資料ばかりです。この「新渡戸文庫」の誕生により、貧弱だった県立図書館の郷土資料に初めて魂が入ったと言われます。



新渡戸 仙岳  
(1858-1949)

『岩手県立図書館のあゆみ  
新館落成記念誌』より

## 視聴覚ライブラリーの誕生

同年、県立図書館内に「岩手県フィルムライブラリー(翌年「視聴覚ライブラリー」と改称)」が設置されます。これはGHQによる民間教育政策として始められたものでしたが、次第に日本映画やレコードなども取り入れて、県民に広く親しまれる施設として発展していきました。1954年(昭和29)に行政上の都合により中止されるまでの間、このライブラリーの資料によって行われた映画会は年平均5000回、観覧者は150万人という大盛況ぶりでした。



「野外レコード・コンサート」  
なども行われたんだって!



## 自動車文庫 こまどり号



こまどり1号

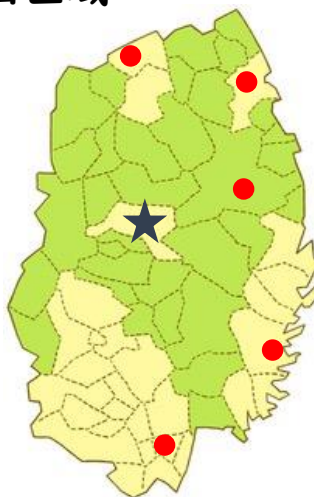
(『岩手県立図書館のあゆみ 新館落成記念誌』より)

「県内くまなく図書のサービスを」という県民の声にこたえ、1959年(昭和34)「こまどり号」と名付けられた自動車文庫が発足します。読書施設に恵まれない地域を重点的に巡回し、図書の貸出や読書相談、読書グループの育成などを行いました。1985年(昭和60)までの26年間で1~4号まで代替わりし、延べ318市町村を巡回しています。

## こまどり号巡回区域

- ★ 岩手県立図書館
- 分館があった地域
- こまどり号が巡回した区域

当時は福岡(二戸)・千厩(一関)・釜石(のちに岩泉に移館)・久慈には県立図書館の分館があったよ。



分館の奉仕圏外の地域や、当時はまだBM(自動車文庫)がなかった地域を重点的に巡回していたらしいよ。



## こまどり号の歌

桜田史郎:作詞 鷹鷲洋一:作曲

みどりの朝風 かおる道  
読みたいご本 見たい本  
たのしさ積んで ホーイホイ  
文化の華の 咲く小枝  
黄色い背に ついばんで  
羽搏く車 こまどり号  
ㇿエコー  
こまどりさんー  
こまどりさんー



## 新館移転を望む声

開館から30年以上が過ぎて建物の老朽化が進み、書庫も手狭になってきた頃、「そろそろ新しい図書館をつくって移転してはどうか」という話が持ち上がります。書庫は1958年（昭和33）に増築されますが、戦争を乗り越えてあちこちが古くなり、壊れてきている建物の方は、その都度応急処置をしながらどうにかやり過ごしているような状態が続いていました。1960年（昭和35）には、盛岡市の都市計画によって県立図書館の面する内丸通りの拡張工事が行われます。軒下まで道路が広げられ、閲覧室の騒音は甚だしいものとなりました。また1962年（昭和37）には、道路に面した閲覧室の壁が突然はがれおちて路上に落下するという事故が起こります。幸いけが人は出ませんでした。もはや建物自体が限界にきているとみて、いよいよ新館移転計画が動き出しました。



落壁事故の記事

『岩手日報』1962年（昭和37）8月23日

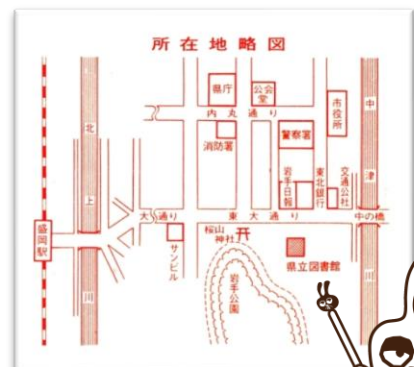


両袖をもぎ取られた図書館  
（『岩手県立図書館のあゆみ  
新館落成記念誌』より）

最初は盛岡市志家町の旧葛西荘内（現・IBC 岩手放送付近）に新館を建設予定でしたが、その案は見送られます。なかなか建設地が決まらずにいるうちに内丸通りの拡張工事はさらに進み、1964年（昭和39）には建物の一部が取り壊されてしまいました。1965年（昭和40）に内丸の旧教育庁跡付近が案として出され、建設省、県土木部、盛岡市および県教育委員会で何度も視察や検討を行った結果、ようやく新館建設地として決定します。

## 新館落成

かくして1966年（昭和41）11月、盛岡市内丸1番地にて新館の建設工事が始まりました。建設地は市の公園緑地計画地域内にあったため、周囲の景観を損ねないように、外観にも配慮する必要がありました。また付近の学校や飲食店に影響を及ぼさないように、敷地面積についても制約を受けていました。そのため建設省や盛岡市と折衝を重ね、時には設計変更も行いながら、予定より遅れて1968年（昭和43）2月10日、ついに待ちに待った新・岩手県立図書館が開館します。新館は鉄筋コンクリート構造の地上2階（一部中3階）と地下1階からなり、閲覧席は272席、蔵書数は約17万冊、図書収容可能数は約25万冊でした。15年間は書庫がもつ計算でしたが、もしまたスペースが足りなくなった場合には、階を重ねて増築できる造りになっていました。



ここだよ！

現在は「もりおか歴史文化館」の建物として使われているよ。



ぜんけい  
全景



やね  
屋根に  
なにか  
のってる？

ポストの

# 新館デザイン解説

●外観は南部鉄器を思わせるような

しぶめの黒で統一されているよ！

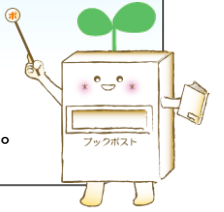
●館内は白と茶色で落ち着いた印象！

●屋根の上には、岩手県出身の彫刻家

船越保武氏による「ふたば」

がついているよ！伸びゆく

岩手の文化を象徴しています。



こうかいしょかしつ  
公開書架室

本を手にとって  
自由に選べる  
コーナーだよ！

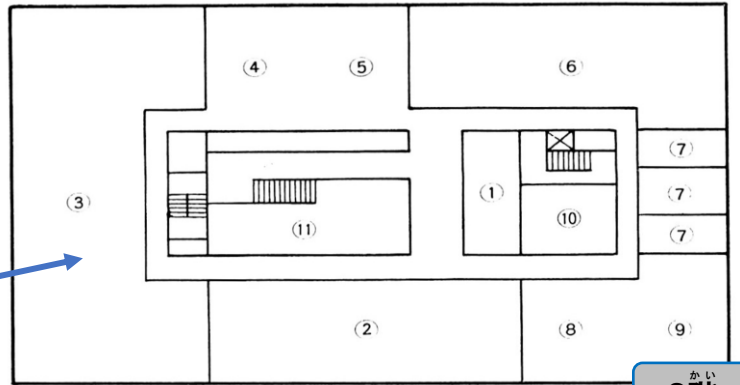


## たんけん！二代目 けんりつとしょかん 県立図書館

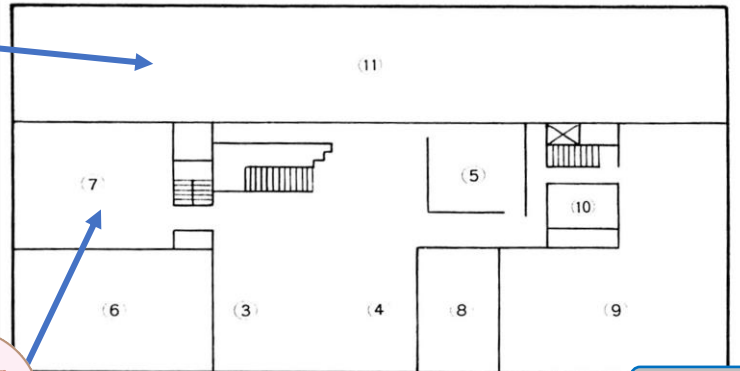
へいめんず  
平面図

てんじ  
展示や  
しゅうかい  
集会に

ちゅうかい  
中3階



かい  
2階



かい  
1階



おも  
地下は主に  
機械室や  
電気室など

ちかい  
地階

しょこ  
書庫

今後さらに本が  
増えた時のために  
3階建てにして  
書庫を増やせる  
造りになっていた  
らしいよ！



わかば  
どくしょしつ  
読書室

子どものための  
読書室だよ

写真・図

『岩手県立図書館のあゆみ 新館落成記念誌』より



# じょうほう 情報化社会と図書館



## 図書館のデジタル化

1990年代半ば頃から家庭用コンピュータ(パソコン)や携帯電話などが広く普及し、誰もが手軽にインターネットにアクセスできるようになったことで、私たちの生活は大きく変わり始めました。情報技術(IT)の著しい発展にともなう、「高度情報化社会」の到来です。図書館も時代に合わせたサービスを求められるようになり、県立図書館でも1997年(平成9)よりデジタル化の様々な取り組みを始めました。

## 岩手県立図書館のデジタル化の取り組み

### ①古文書や賢治・啄木関係資料のデジタル化(1997年~)

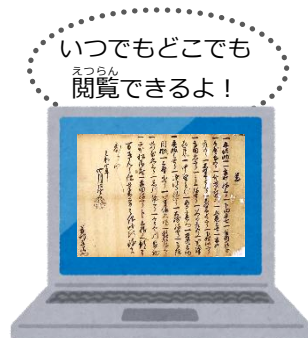
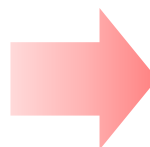
普段は書庫の奥に眠っている貴重な資料をデジタル化し、インターネットを通じてより多くの人に利用してもらえるようにしました。資料保存も兼ねています。



なんぶとしなおこくんじょう  
『南部利直黒印状』

図書館に行かないと見られない…

やぶれそうで  
こわい…



いつでもどこでも  
閲覧できるよ!

### ②所蔵資料のデータベース構築(1998年~)

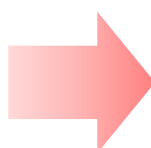
蔵書のデータをすべてコンピュータに入力して、システムで管理できるようにしました。検索も簡単! それまではカード目録で管理していたため、様々な作業にとっても時間がかかっていました。



カード目録

さが探るのが大変!

書き直すのも  
ひとくろく  
一苦労…



蔵書検索機

このような  
目録をOPAC  
(オンライン蔵書  
目録)と呼んで  
いるよ

### ③ホームページの開設(2001年~)

今までは「利用案内」など限られたお知らせだけでしたが、ホームページの開設によって、もっと多彩な情報を広く発信できるようになりました。



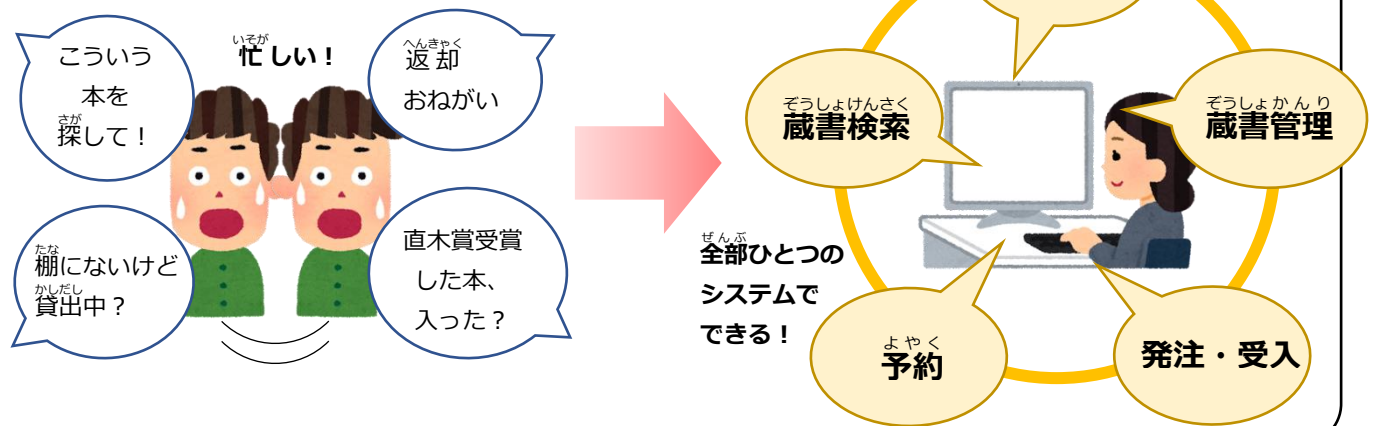
蔵書の  
検索

デジタル  
資料閲覧

イベントの  
お知らせ

#### ④ 図書館情報システム稼働(2003年～)

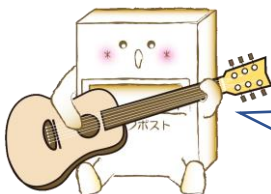
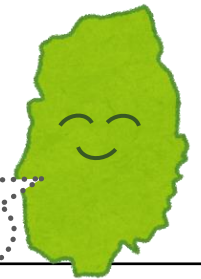
様々な図書館の業務(蔵書検索・貸出返却・予約・蔵書管理・発注受入など)をひとつのシステムで一括管理できるようになり、業務が格段に迅速化・効率化しました。



#### ⑤ 県内図書館横断検索

県内各市町村立図書館の協力によって図書館間ネットワークが確立され、インターネットを通じて横断検索(一度に県内の図書館すべての蔵書を検索)ができるようになりました。

何回も検索しなくても  
良くなったのでらくちん♪



ここで紹介した取り組み以外にも、eメールを使った申し込みやレファレンスデータベース作成など、様々なデジタル化が行われたよ!

#### 多目的複合施設へ

2代目図書館も開館から30年近くが経過し、老朽化が進んできた1999年(平成11)、県立図書館を時代のニーズに合わせた新しい施設にするための計画「岩手県図書館情報総合センター整備基本構想」が打ち出されます。広く県民に利用してもらえるような情報交流の拠点とすべく、県立図書館・視聴覚障がい者情報センター・運転免許センター・パスポートセンター・多目的ホールや会議室などが入った多目的複合施設の建設が決まりました。

移転作業のため、2代目県立図書館は2005年(平成17)

12月より休館に入ります。



これは本棚などを入れる前のからっぽの県立図書館だよ!

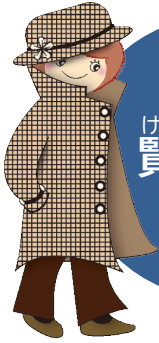


とくべつ しょうかい  
**特別なコレクションを紹介するコーナー**

岩手県立図書館の  
 とくべつ しょうかい  
 特別なコレクションをご紹介します！  
 どんなものがあるのかな？



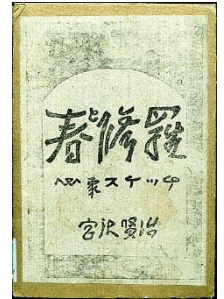
けんじ  
**賢治文庫**



童話作家・宮沢賢治の著作および  
 研究資料のコレクション。  
 『注文の多い料理店』『春と修羅』の  
 初版本など、貴重な資料もあります。



『注文の多い料理店』



『春と修羅』

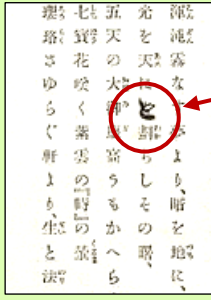
たくぼく  
 啄木が自分で  
 書き直した跡が  
 あるよ。



たくぼく  
**啄木文庫**



詩集『あこがれ』



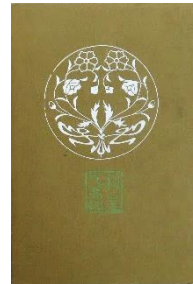
歌人・石川啄木の著作および  
 研究資料のコレクション。  
 啄木の研究者でもある吉田孤羊氏から  
 寄贈された資料が元になっています。



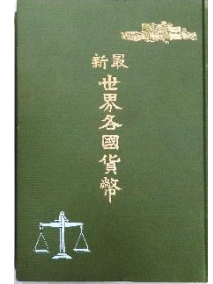
**村井文庫**



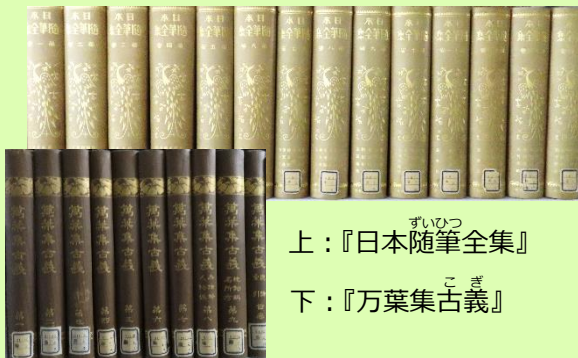
酒造「あさ開」創業者・村井源  
 三氏より寄贈。若くして亡くなった  
 長男の遺言により、図書館購入  
 基金が寄付され、当代随一の専門家  
 によってそれぞれ仏教書・経済書  
 が選書されたものです。



『仏教国民の理想』



『最新世界各国貨幣』

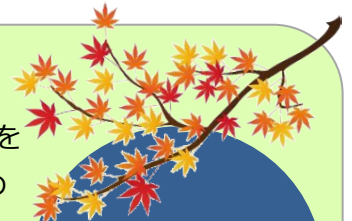


上：『日本随筆全集』

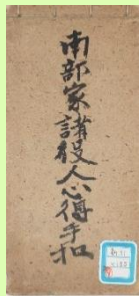
下：『万葉集古義』

旧制第一高等学校の校長を  
 務めた、菊池寿人氏の蔵書の  
 一部。当時の国文学に関する  
 重要な本はほとんど揃って  
 おり、研究者にとって貴重な  
 資料です。

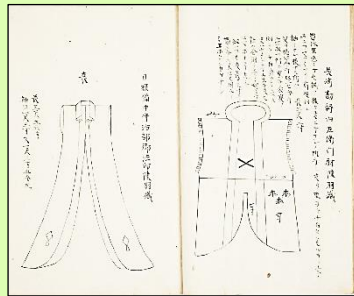
きくち  
**菊池文庫**







なんぶけしやくにんこころえてびかえ  
『南部家諸役人心得手帳』



ぐそくほりこ  
『具足羽織考』



えそちこうろず  
『蝦夷地航路図』

これは南部家の  
お侍さんの心得手帳！

郷土史家・新渡戸仙岳氏から寄贈された、郷土に関する様々な資料です。  
内容は多岐にわたり、岩手の歴史研究に欠かせないものばかりです。

### にとべ 新渡戸文庫

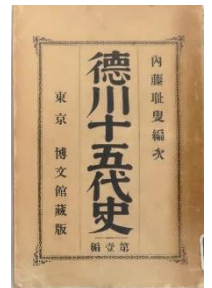
### のむらぶんこ 野村文庫



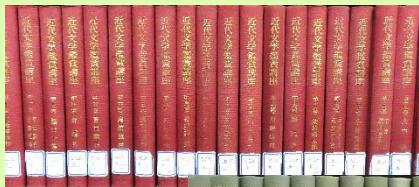
「銭形平次」の作者、小説家・野村胡堂の蔵書の一部が寄贈されました。  
執筆の参考にしたと思われる、日本の歴史や江戸時代の文化・風俗に関する本がたくさん！



あだうち  
『日本仇討』



とくがわ  
『徳川十五代史』



かんしやうこうざ  
『近代文学鑑賞講座』

れきし  
『東洋の歴史』

東山堂書店の2代目社長・玉山定次郎氏より寄贈されました。  
歴史書や自然科学、芸術や文学の全集などがあります。

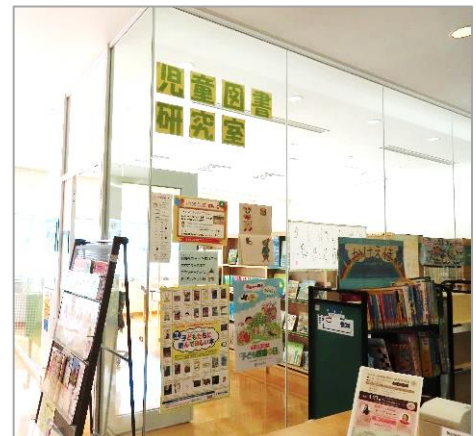
### 玉山文庫



### よしけん 吉賢文庫

弁護士・吉田賢雄氏の遺志により寄贈された青少年向け図書です。  
児童書や社会・文学関係など。

児童図書研究室  
(児童カウンター横の  
ガラス張りの部屋)に  
配架されているよ

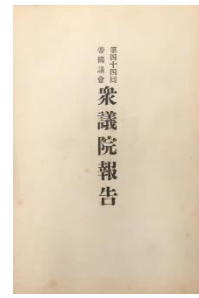


## はらけい 原敬文庫

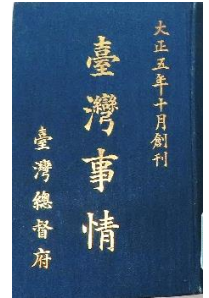


はらたかし ようし みつぐし きそろう  
原敬の養子の貢氏より寄贈され  
た、第19代内閣総理大臣・原敬の  
ぞうしょ。ジャーナリズムや外国のちし  
ど内容は幅広く、貴重な歴史資料です。

そんけい  
尊敬と親しみを込めて  
「ハラケイさん」と呼ばれて  
いたことにちなんでいるよ



『第四十四回帝国  
議会衆議院報告』



『台湾事情』

はんこには「発売頒布禁止」「警視庁」と書いてあります



『日本艶本解題』



『武装せる市街』

えさしぐん さえきくろうし  
江刺郡出身の詩人・佐伯郁郎氏  
より寄贈されました。  
佐伯氏は内務省に勤めた経歴が  
あり、蔵書の中にはせつしゅう  
発禁本(公権力によって禁止され  
た本)もあります。

## さえき 佐伯文庫



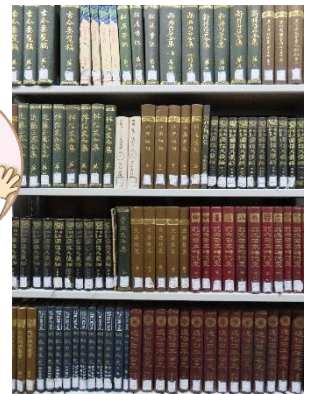
今は禁止されていないよ

## 山本文庫

ひでろうし きそろう  
山本秀郎氏より寄贈されました。  
『群書類従』や『甲子夜話』など、  
れきししよ 歴史書、近世文学書の全集が多い  
のが特徴です。



りっぱな全集だね！

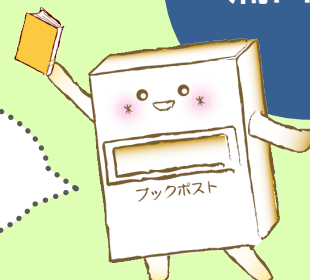


きょうゆめ  
高校教諭のかたわら、岩手の近代  
文学研究に力を注いだ浦田敬三氏の  
ぞうしょ 蔵書の一部が寄贈されました。  
岩手の文学研究のためのきちよう  
資料が数多くあります。

## うらた 浦田文庫

図書だけじゃなく

ぶんげいざっし  
文芸雑誌もたくさん！





# かつどうきよてん 新たな交流・活動拠点としての図書館

## たいぼう いてんかいかん 待望の移転開館

2005年(平成17)12月から5か月にわたる休館期間を経て、2006年(平成18)5月8日、いわて県民情報交流センター(愛称:アイーナ)に新しい岩手県立図書館が開館しました。都道府県立図書館として初めて指定管理者制度を導入したことで全国から注目を集めた県立図書館は、開館時間の延長や、蔵書、設備の充実など、サービスの拡充を図り、新たな一歩を踏み出しました。

5月8日は、開館を待ちわびた大勢の利用者であふれ、利用登録や、図書の貸出、調べものの相談など、5つのカウンターはとても混み合いました。この日を知るスタッフは、「一日中ひたすら利用者カードを作成していた」「次から次へと、調べ物のための本を探すのが大変だった」と、当時の慌ただしい様子を振り返ります。

5月8日から31日までの図書館入館者数は、43,467名でした。開館して最初の日曜日の5月14日は、3,531名という、県立図書館始まって以来の入館者数を記録しました。

5月の新規登録は4,859件、貸出冊数が17,978冊と、とても多くの人に利用されたことがわかります。



2006年5月8日の館内の様子

「アイーナ」の名称は「あ、いいな」から。岩手県民からの一般公募によって決定したよ！



## いわてけんみん あらた こうりゅう かつどうきよてん 岩手県民の新たな交流・活動拠点



いわて県民情報交流センター(愛称:アイーナ)は、2006年(平成18)4月1日に一部の施設が開所、5月8日に全面開館しました。施設全体は、「知」「楽」「学」の3つの層で構成され、「知」に図書館施設、「楽」に情報・展示などを主体とした立ち寄り型施設、「学」に多機能型ホール、会議室、県民活動の拠点施設など、施設の性格に応じたゾーニングが特徴です。

参考:『新建築 2006年7月号』新建築社 2006.7

# 岩手県立図書館の一日

岩手県立図書館では、毎日いろいろな場所でたくさんのスタッフが働いています。  
どんな仕事をしているのか、ある一日をご紹介します。



## 午前8時30分 開館準備



出勤スタッフ全員で、前日の状況や当日の予定を共有します。

その後、新聞のチェックや、ブックポストに返却された図書の回収と返却を行います。開館時間まで、書架の整理を行います。



ブックポストから図書の回収

借りている本を延長したいのですが……

電話対応



## 午前10時

今日は、アイーナ6階の子育てサポートルームで開催されるおはなし会にスタッフが参加します。手遊びや、大型絵本の読み聞かせなど、直前まで入念に練習します。

出番を終えてカウンターに戻ると、おはなし会に参加していた親子を見かけることもあります。



おはなし会の練習

## 午前12時



郷土資料カウンターでは、岩手県に関する調べものの手伝いのため、毎日さまざまな資料を調査しています。

また、貴重書庫から、何百年も前に書かれた古文書や、大きな絵図を出納することもあります。とても慎重に、丁寧に取り扱い扱っています。



レファレンスサービス  
(調べ物のお手伝い)で  
資料を調査中



貴重書庫から古文書や絵図の出納





## 午後1時

他の図書館から、図書を取り寄せるサービスを「相互貸借」といいます。この日は、県内の市町村立図書館から届いた図書を、図書館ごとに仕分けています。図書館同士が協力して、皆さんが必要とする図書を近くの図書館にお届けしています。



市町村立図書館に配送する本の仕分け作業



## 午後3時

4階企画展示コーナーでは、約2ヶ月に1度さまざまなテーマを設けて企画展を開催し、所蔵資料を中心に貴重な資料を紹介しています。

音と映像カウンターでは、企画展に合わせて映画会のポスターを作成しています。



企画展示の準備



## 午後5時

ミニ展示がいくつも並び、児童コーナー。児童カウンターは5時で閉まりますが、絵本や児童書は、隣の総合カウンターで手続きすることができます。

夕方過ぎからは、学校や仕事帰りに立ち寄られる方が多く見られます。



児童コーナー

## 午後8時 へいかん 閉館



閉館後は、館内に忘れ物や、人が残っていないかを確認して鍵をかけます。

新聞・雑誌カウンターでは、当日の新聞を整理しています。

機器の消毒や、書架の整理をして、一日の仕事は終わりです。



へいかんご 閉館後、当日の新聞を綴る



図書の貸出や返却以外にも、たくさんの仕事があるんだね！





# ひがしにほんだいしんさい 東日本大震災と図書館

## ひがしにほんだいしんさいはっせい 東日本大震災発生

2011年(平成23)3月11日14時46分、携帯電話の緊急地震速報が鳴り響くと同時に、経験したことの無い激しい揺れが館内を襲いました。揺れは数分間続き、書架から本がバサバサと落下する音がフロアに響いていました。スタッフは、「危険ですので、棚から離れて下さい!!」、「机の下に入って下さい!!」と、大声で呼びかけ続けました。一旦、揺れが収まった後、館内放送の指示で、アイーナの1階と3階エントランスへ利用者の避難誘導を行いました。その後、停電により図書館のシステムが使用できなくなったこと、また盛岡駅に隣接するアイーナが帰宅困難者のための避難場所となったことから、この日は16時で閉館、翌日からは臨時休館することが決まりました。



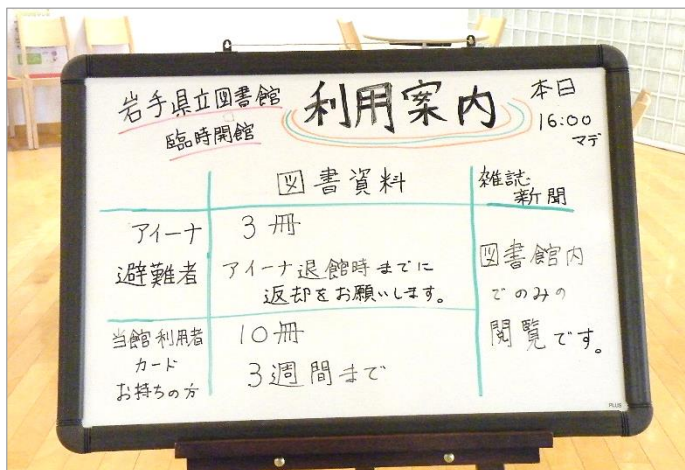
3階 一般図書コーナーの書架



4階 音と映像コーナーの書架



アイーナに避難している帰宅困難者



図書館の一部を開放したサービスの利用案内

アイーナへの避難者は、一時約1,000名にのぼり、スタッフは食料や毛布の配布、出入口自動ドア付近での案内誘導にあたりました。同時に、館内の被害状況の確認を進めながら、県内の図書館の様子を電話で聞き取り、ホームページでの震災関連情報提供の準備を進めました。そして、アイーナへの避難者に図書館の一部を開放する臨時サービスを開始するなど、可能な限りの情報収集と提供につとめました。

数日かけて落下した資料を書架に戻し、館内の復旧・設備点検を経て、4月1日より時間を短縮しての開館、14日から通常開館となりました。

その後、被災した図書館への支援活動として、支援図書の仕分けや、被災した郷土資料の修復・救済や、被災地での読み聞かせ等を行いました。



# 震災関連資料コーナー

ひがしにほんだいしんさいはっせい

やく

へいせい

東日本大震災発生から約7か月後の2011年(平成23)10

きょうどしりょう

しんさいかんれんしりょう

月21日、3階郷土資料コーナーの一角に「震災関連資料コー

つなみひがい

ふっきゅう

ふっこう

ただなか

ナー」がオープンします。津波被害からの復旧・復興の只中であ

しゅうしゅう

しりょう

って、収集した資料をなるべく早く活用していただけるよう、

みせいりじょうたい

かり

未整理状態の資料も公開していたため、この時点ではまだ仮オ

しょうたい

しりょうすう

ープンという状態でした。開設時の資料数は、図書、雑誌、チラ

いちまい

やく

しゅうしゅうしりょう

シなどの一枚もの資料をあわせて約700点でした。収集資料

には、岩手県や、各市町村が発行した復興計画、ボランティアの

きろく

しりょう

記録、写真集などの資料があります。

その後、2012年(平成24)4月1日に、「震災関連資料コーナー」が本オープンします。コーナーの

しんさいかんれんしりょう

せっちしゅうし

ひがしにほんだいしんさい

ひがいにじょうきょう

きゅうえんかつどう

ふっこう

かん

きちょう

しりょう

設置趣旨には、「東日本大震災から生み出された被害状況・救援活動・復興などに関する貴重な資料

を後世に引き継ぐために収集・保存するとともに、その資料を閲覧などに供することで、災害復興や

ぼうさいたいさく

けんきゅう

せっち

防災対策(研究)にも役立てていただけるよう設置するもの」と記されています。

2022年(令和4)9月1日現在、32027点の震災関連資料を所蔵しています。しかし、時がたつにつ

ひがしにほんだいしんさい

かん

しりょう

げんしゅう

しんさい

きおく

つ

れて、東日本大震災に関する資料の発行数は減少しています。震災の記憶を後世に語り継ぐことは、自

分や大切な人の命を守ることに繋がります。この震災関連資料コーナーが、防災・減災の一助となり、

ひがしにほんだいしんさい

きょうくん

うしな

ねが

東日本大震災の教訓が決して失われることのないよう願います。



2011年10月21日にオープンした  
震災関連資料コーナーの様子



震災関連資料は「チラシ」等が所蔵されているのが特徴です。主に一枚ものの資料の「チラシ」等は、テーマごとにクリアファイルで整理しています。避難所の情報や、義援金の申請書などの書類、被災者支援をよびかけるものなど、震災当時の状況がわかる貴重な資料です。



一枚ものの資料の一部

# か コロナ禍の図書館



## 新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス<sup>かんせんしょう</sup>感染症<sup>たいおう</sup>への対応

2020年(令和<sup>れいわ</sup>2)は、新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス<sup>かんせんしょう</sup>感染症の感染拡大により、日本も世界も大混乱しました。2020年(令和<sup>れいわ</sup>2) 2月26日、安倍<sup>あべ</sup>総理<sup>そうり</sup>が新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス<sup>かんせんしょう</sup>感染症<sup>たいさくほんぶ</sup>対策本部を開き、今後2週間は全国的なスポーツや文化イベントの中止<sup>えんき</sup>や延期<sup>きぼしゅくしゅう</sup>、規模<sup>ようせい</sup>縮小を要請します。2月27日、県立図書館では、2週間以内に予定していた講演会やおはなし会などのイベントの中止・延期が決まりました。

その後、館内では、利用者<sup>りようしゃ</sup>同士<sup>どうし</sup>の距離<sup>きょり</sup>を一定程度<sup>いっていい</sup>保つため、閲覧<sup>えつらん</sup>席や蔵書<sup>ぞうしよ</sup>検索<sup>けんさく</sup>機の台数<sup>たいすう</sup>を減らし、インターネットや、視聴<sup>しちゆう</sup>ブースなどの機器<sup>きき</sup>類は利用<sup>ていし</sup>を停止<sup>ていし</sup>しました。

同年4月7日、政府<sup>せいふ</sup>から「緊急<sup>きんきゆう</sup>事態<sup>じたい</sup>宣言<sup>せんげん</sup>」が発令<sup>はつれい</sup>され、4月16日には「7都道府<sup>とどうふけん</sup>県<sup>けん</sup>から全国<sup>たいしゆう</sup>を対象<sup>たいしゆう</sup>地域<sup>ちいき</sup>が拡大<sup>かくだい</sup>されました。岩手<sup>いわて</sup>県<sup>けん</sup>においても、4月23日に「岩手<sup>いわて</sup>県<sup>けん</sup>における新型<sup>しんがた</sup>コロナウイルス<sup>かんせんしょう</sup>感染症<sup>かく</sup>拡大<sup>かくだい</sup>防止<sup>ぼうし</sup>のための緊急<sup>きんきゆう</sup>事態<sup>じたい</sup>措置<sup>そち</sup>」が発令<sup>はつれい</sup>され、不要<sup>ふよう</sup>不急<sup>ふききゆう</sup>の外出<sup>じしゆく</sup>の自粛<sup>じしゆく</sup>が要請<sup>ようせい</sup>されました。

県立図書館は、4月25日から5月6日まで、入館<sup>にゅうかん</sup>してのサービス<sup>サービス</sup>利用<sup>りよう</sup>を制限<sup>せいげん</sup>し、宅配<sup>たくはい</sup>便<sup>びん</sup>や、事前<sup>じぜん</sup>予約<sup>よやく</sup>による貸出<sup>かしたし</sup>を行いました。期間中<sup>かまかんちゆう</sup>、臨時<sup>りんじまどぐち</sup>窓口<sup>まどぐち</sup>には420人が来館<sup>らいかん</sup>し、貸出<sup>かしたし</sup>は1500冊<sup>さつ</sup>を超え<sup>こ</sup>えました。その後も、2021年(令和<sup>れいわ</sup>3)8月12日に発令<sup>はつれい</sup>された、岩手<sup>いわて</sup>県<sup>けん</sup>独自の「岩手<sup>いわて</sup>緊急<sup>きんきゆう</sup>事態<sup>じたい</sup>宣言<sup>せんげん</sup>」により、8月16日から9月17日まで、臨時<sup>りんじまどぐち</sup>窓口<sup>まどぐち</sup>を設<sup>もう</sup>けたサービス<sup>サービス</sup>制限<sup>せいげん</sup>は二度<sup>じっし</sup>にわたって実施<sup>じっし</sup>されました。



臨時<sup>りんじまどぐち</sup>窓口<sup>まどぐち</sup>の様子

## か コロナ禍ではじまった取り組み

### 1 セット本<sup>てんじ</sup>・シリーズ本の展示<sup>てんじ</sup> (2020年2月~5月)

滞在<sup>たいざい</sup>時間<sup>じかん</sup>を短くできるように企画<sup>きかく</sup>した「セット本」とは、テーマごとに集めた5冊の図書<sup>かみぶくろ</sup>を紙袋<sup>かみぶくろ</sup>に入れて、手書き<sup>てがみ</sup>のテーマをつけたものです。どんな本が入っているかわからない「本の福袋<sup>ふくぶくろ</sup>」とはちがって、中<sup>かくにん</sup>の本を確認<sup>かくにん</sup>することができます。

この機会<sup>ふだんえら</sup>に、普段<sup>ふだん</sup>選<sup>えら</sup>ばないようなテーマの本<sup>てんじ</sup>を手<sup>てんじ</sup>に取<sup>てんじ</sup>ってみたいという声<sup>こゝろ</sup>も聞こえました。



「セット本」<sup>てんじ</sup>展示

「はじめてのおはなし」「ふしぎはおすき？」  
「くま・くま・くま!!」など、図書館<sup>としよかん</sup>スタッフ<sup>スタッフ</sup>  
みんなでさまざまなテーマ<sup>てま</sup>を考え<sup>かんが</sup>たよ!





「セット本」と同じ時期に取り組んだのが、「シリーズ本」の展示です。おうち時間に、じっくりと読むことのできる長編シリーズに挑戦してもらおうという考えから始まりました。

どの巻からでも読めるシリーズ「セット本」とあわせて、多くの利用がありました。



「シリーズ本」展示

## 2 いつでも どこでも おはなし会 (2020年8月～)

安心で安全に、おはなし会を楽しんでもらおうと考えて作られたのが、おはなし動画の配信です。著作権に配慮し、民話や昔話を基におはなしを編みなおし、登場人物やセットは全て手作りです。いつでもどこでも気軽に視聴することができるよう、動画の時間は3分～5分程度と短いものにし、You Tube で配信しました。



第1回 おにのてがた



動画撮影の様子

## 3 一家族ごとのおはなし会

現在、図書館スタッフやボランティアの方々によるおはなし会を定期的に開催しています。感染対策として、マスクを着用して、一家族ごとに先着3組まで、絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。



令和3年のおはなし会

## 4 コンシェルジュ出前見学会

施設見学の受け入れが難しい状況を受け、県立図書館の案内人コンシェルジュが県内の学校に出向き、図書館の利用方法や図書の並び方、職員しか入ることができない閉架書庫など、施設見学と同じ内容を写真を使用して説明します。学年に応じた内容で、読み聞かせや、しおり作り体験など、さまざまな見学コースがあります。



出前見学会

県立図書館がアイーナに移転開館してから、東日本大震災の発生や、新型コロナウイルス感染症の影響など、想定できなかったことが起こりました。その度に県立図書館は、何ができるかを考え、問題に向き合ってきました。これからも、さまざまな方法を模索しながら、利用者のために図書館ができることに取り組んでいきます。

さんだいめ  
たんけん! 三代目  
けんりつとしよかん  
県立図書館

じどうか  
自動化  
しよこ  
書庫

じどう  
自動で本を  
出してくれる  
すごい書庫  
だよ!



しゅうみつ  
集密  
しよこ  
書庫



きちょう  
貴重  
しよこ  
書庫



せんしよつ  
選書室や  
しゅうりしつ  
修理室など



これは本を  
しゅうり  
修理している  
ところだよ



かい  
1・2階には色々  
しよこ  
な書庫があるよ♪

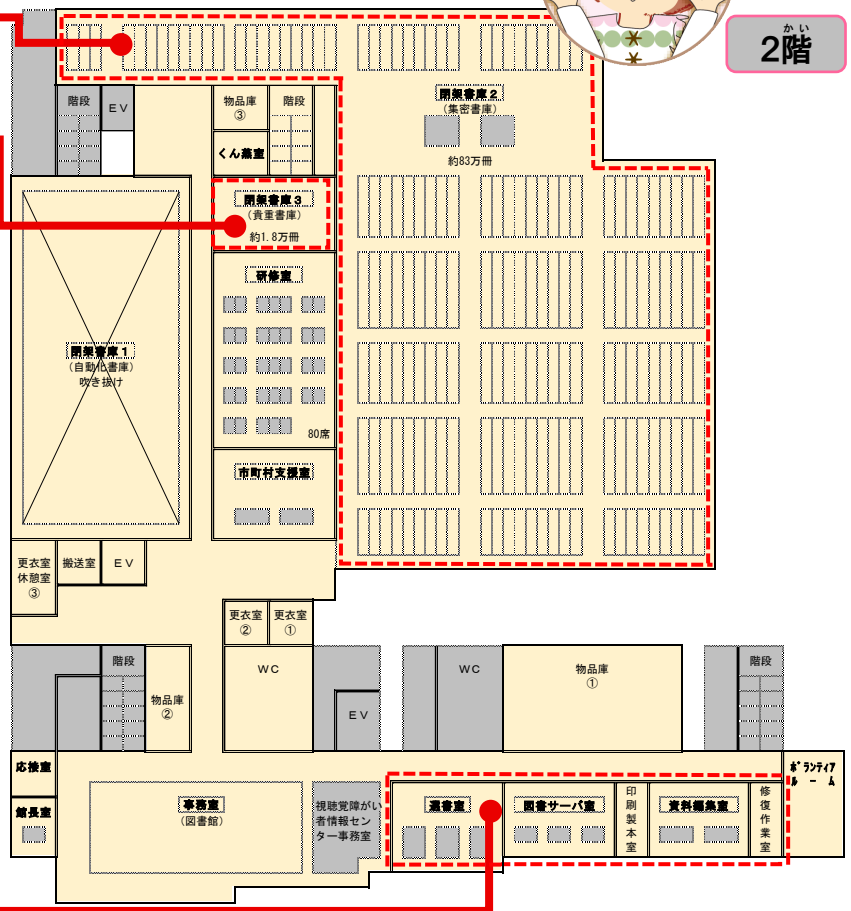
だんたい  
団体  
しよこ  
書庫



かい  
1階  
広い書庫にも本が  
いっぱい!!

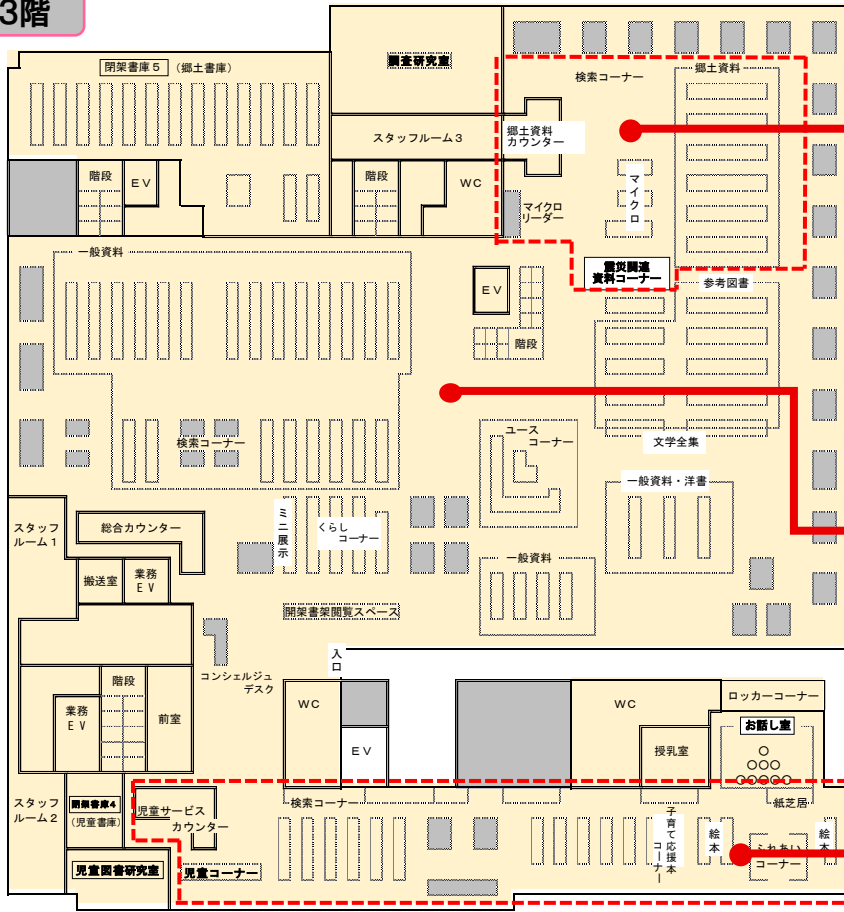


かい  
2階





かい  
3階



きょうどしりょう  
郷土資料  
コーナー



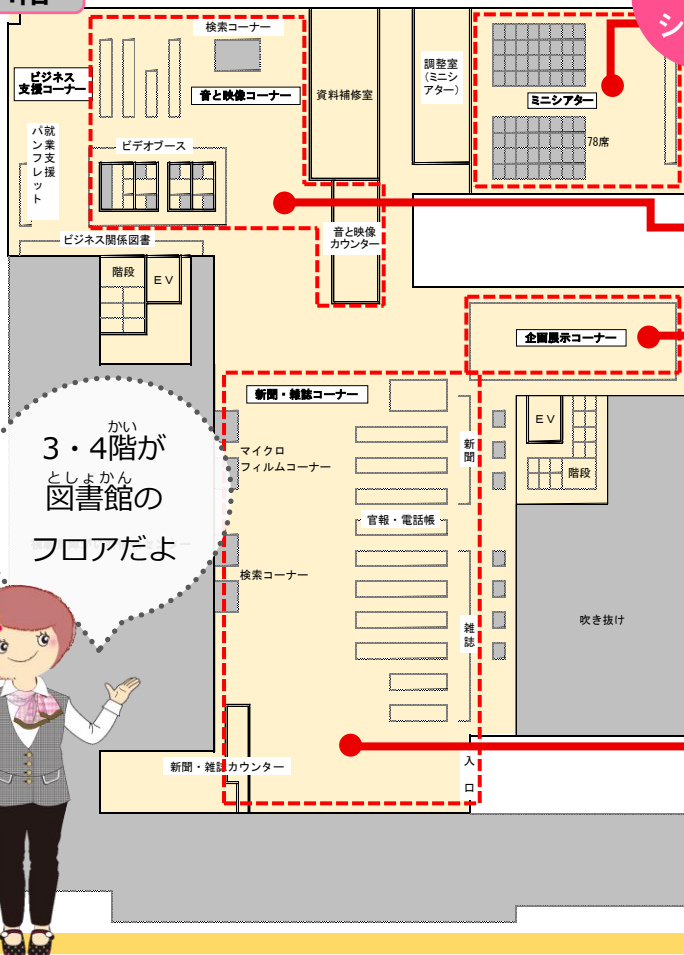
いっぽんとしよ  
一般図書  
コーナー



じどう  
児童  
コーナー



かい  
4階



ミニ  
シアター



えいざう  
音と映像  
コーナー



いろいろ  
テーマで  
きかくてんじ  
企画展示を  
しています!



きかくてんじ  
企画展示  
コーナー



しんぶん ざっし  
新聞・雑誌  
コーナー



かい  
3・4階が  
としよかん  
図書館の  
フロアだよ



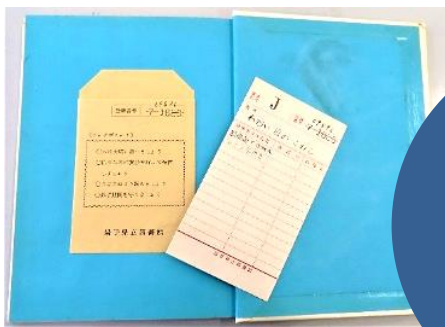
図:「要覧 2022(令和4年度版)」より

# 岩手県立図書館大百科



まず、昔の図書館を  
見てみましょう!

旧館時代の本の貸出カードは紙製。  
二つ折りで、貸出日と返却日をゴム印で押  
していました。児童室の本には、紙のカード  
が入っていて、ここにも貸出日と返却日の  
ゴム印を押します。日付印が多い本は、人  
気があるとすぐ分かりました。



本には一冊ずつ紙の  
カードが付いていた

紙の貸出カード  
に日付印を  
ペタペタ!

むかし  
昔のおはなし会  
どうわかい  
「童話会」

1927年(昭和2)頃のおはなし  
会「童話会」は、300人収容の  
児童閲覧室が、満員になるほど  
盛況でした。プログラムには「天の  
岩戸」「孝行息子」「乃木将軍の  
少年時代」など、当時の世相が  
反映されています。



引出しには目録カードがぎっしり!

2003年(平成15)に図書館  
情報システムが入るまで、本を探  
すときは、目録カードを使いました。  
カードには、題名や著者名、出版  
年など本の情報が書いてあり、  
専用の引出しに入れていました。

もくろく  
目録カード  
って何?

ここからは、現在の  
県立図書館のことだよ!



過去の新聞を  
でんししゅくさつばん  
電子縮刷版や  
マイクロフィルム  
で見られる!

3階郷土資料コーナーでは、過去の  
新聞や、古文書などのマイクロフィルム  
を見ることができます。「岩手日報電子  
縮刷版」は、キーワードや、検索期間を  
絞って検索できる便利な機能がありま  
す。自分や家族の生まれた日に、どん  
なニュースがあったか調べてみよう!







いろいろな書庫や  
文庫があるね!



本の取り出し口



自動化書庫は、コンピュータを使っ  
て本を呼び出す、近未来的な書庫で  
す。建物2階分の高さがあり、各階の  
取り出し口に、本の入ったコンテナが  
運ばれてきます。コンテナは、9000個  
以上あり、約 385,000冊の本を  
収容できます。

自動化書庫は  
本がスイスイ  
出てくる!

きちよう  
貴重書庫には  
大名行列  
の絵図が!



この鮮やかな絵は、江戸城に正月参賀する盛岡藩士を描いた「南部藩大名  
行列図」です。江戸時代、諸大名が江戸と国元を往復した際の行列を大名行列  
と呼び、盛岡藩など江戸から遠い藩にとって、大きな負担となっていました。

画像は、ホームページ「デジタルライブラリーいわて」で閲覧できます。



表紙に愛橘のサイン

原敬文庫には、二戸市出身の物理学者・田  
中館愛橘博士が、「原君に…」とローマ字で記  
した『発音考』という貴重な本があります。  
原敬と田中館博士は、盛岡藩校・作人館の同  
級生。生涯を通じた盟友でした。

はらけいぶんこ  
原敬文庫  
のサイン本  
はつおんこう  
『発音考』



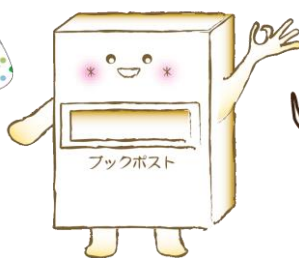
はらたかし くにこくこく国会図書館  
「近代日本人の肖像」より

図書館内のポスターや  
掲示にも登場していま  
す。さがしてみてね!

オリジナル  
キャラクター  
せいぞろい!!



そめちゃん



ポストン



セキネさん



ブラリー

ホームページや印刷物に  
登場する、当館オリジナル  
キャラクターです。

ミニシアターで  
えいが 映画会や こうえん 講演会  
を楽しもう！

4階には、73人まで（現在<sup>げんざい</sup>は感染症対策のため最大39名<sup>かんせんしょうたいさく</sup>）収容できる、ミニシアターがあります。シアター内にはスロープがあり、車いすやベビーカーでも安心して、映画会<sup>えいが</sup>に参加<sup>さんか</sup>できます。



2019年に開催された講演会の様子



3階入り口そばの書架

2014年（平成<sup>へいせい</sup>26）4月、「くらしコーナー」が誕生<sup>たんじょう</sup>しました。生活・家庭・健康・シニアの4つのテーマで構成され、生活などの課題の解決<sup>かいけつ</sup>を1か所で行えるように整理されています。ちらしやパンフレット等もあり、手軽に情報<sup>じょうほう</sup>を集めることができます。

くらしコーナーは  
とっても便利<sup>べんり</sup>



図書除菌機は、紫外線をあてて除菌<sup>じょきん</sup>をしたり、ホコリやゴミ、においなどを除去<sup>じょきよ</sup>することができる機械です♪



コンシェルジュ  
の  
お仕事

コンシェルジュは、図書館<sup>あんない</sup>の案内役です。館内見学ツアー「図書館さんぽ」や、学校を訪ねて図書館の利用方法などを説明する「出前見学会」で、図書館のことを皆さんにお知らせしています。



図書除菌機の説明をしています

4階の企画展示コーナーでは、約2ヶ月に1度様々なテーマの企画展<sup>かいがい</sup>を開催しています。隔年開催の宮沢賢治と石川啄木の展示はたくさんの方が訪れます。詳しいスケジュールは、チラシやポスター、ホームページでお知らせしています。



宮沢賢治資料展のようす

きかくてん  
企画展で  
貴重な資料を  
紹介





フリーペーパー  
「ぺっこ」と  
「PECCO」



「ぺっこ」とは、岩手の方言で「ちょっと」という意味です。図書館のことを少しでも知ってほしい、という願いをこめて名付けられました。

発行は、2007年(平成19)から。現在は、ローマ字表記「PECCO」になり、イベントやおすすめ郷土資料などの情報を年4回発信しています。



PECCO はホームページでも見られます

岩手にはおもしろい昔話がいっぱいあるよ



「こんびたろう」の一場面

P23 で紹介したおはなし会動画は、現在(2022年8月)「お地蔵さまのおんがえし」「こんびたろう」など5つのお話を配信中! 今後も増やす予定です。当館ホームページから見る事ができます!

いつでも  
どこでも  
おはなし会



本の修理は  
プロの技

専門的な技術  
が必要なんだね



本の背表紙が取れたり、ページが破れたりした時は、可能な範囲で直しています。和紙などを使い、ボランティアの方や職員が修理作業をします。セロハンテープで直すと、変色して本が傷むので、必ず専用の道具を使います。



児童コーナーで配布しています

「子ども向け郷土資料」は、岩手県の風土や先人について知りたいときの強い味方! 「原敬」「岩手の食文化」「チャグチャグ馬コ」など、本号を含めて7種類あります。ホームページでは、カラーで公開しています。

子ども向け  
郷土資料の  
仲間たち

# 参考文献

- ・『岩手県立図書館30年の歩み』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1953.3
- ・『岩手県立図書館のあゆみ 新館落成記念誌』岩手県立図書館//[編] 岩手県立図書館 1969
- ・『岩手県立図書館のあゆみ』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1996
- ・『岩手県立図書館』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1968
- ・『岩手県立図書館』菊竹清訓建築設計事務所//編 新建築社 1968.9
- ・『岩手県立図書館の歩みと先人たち』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1992.7
- ・『岩手県立図書館図書情報システム基本計画』岩手県教育委員会 2001.3
- ・『図書館要覧 1971～2006』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館
- ・『窓 創刊号～第5号』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1955.1～1956.1
- ・『館報 自大正12年第1号至昭和8年第10号』  
岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1923.11～1933.3
- ・『館報 第11号』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1934.3
- ・『館報 復刊1号～10号(自昭和24年12月至昭和28年3月)』  
岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1949.12～1953.3
- ・『いわて No. 19～No. 36(昭和36～39年)』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1961.5～1964.3
- ・『いわて No. 37～No. 64(昭和39年～44年)』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1964.5～1970.3
- ・『いわて 自昭和45年6月至昭和54年3月』岩手県立図書館//編 岩手県立図書館 1970.6～1979.3
- ・『岩手近代教育史 第二巻』岩手県教育委員会 1981.12
- ・『岩手近代教育史 第三巻』岩手県教育委員会//企画 編集 岩手県教育委員会 1982.1
- ・『明日へつなぐ 岩手の昭和史』岩手日報社//編 守屋 光雄//編集 岩手日報社 1975.4
- ・『あなたの町で戦争があった 岩手の空襲・艦砲射撃』加藤 昭雄//著 熊谷印刷出版部 2003.4
- ・『岩手県史 第10巻』岩手県//編 杜陵印刷 1965.3
- ・『盛岡市史 第6巻』盛岡市史編纂委員会//編 トリョー・コム 1980.2
- ・『岩手百科事典』岩手放送岩手百科事典発行本部//編 岩手放送 1988.10
- ・『村井文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『菊池文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『野村文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『玉山文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『吉賢文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『佐伯文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『山本文庫』[岩手県立図書館//編][岩手県立図書館][2012]
- ・『ニュース年鑑 2021』池上 彰//監修 ポプラ社 2021.3
- ・『いわての図書館 2014』岩手県図書館協会//編集 岩手県図書館協会 2014.12
- ・「としかんいわて No.169」岩手県立図書館 2011.10
- ・「としかんいわて No.170」岩手県立図書館 2012.3
- ・「としかんいわて No.190」岩手県立図書館 2022.3









---

岩手県立図書館子ども向け郷土資料 vol.7

岩手県立図書館誕生物語 本と人を結んで100年

---

発行日 令和4年9月26日

発行者 岩手県立図書館指定管理者

〒020-0045

岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1 いわて県民情報交流センター・アイーナ内

TEL 019-606-1730 FAX 019-606-1731

HP アドレス <http://www.library.pref.iwate.jp/>

---